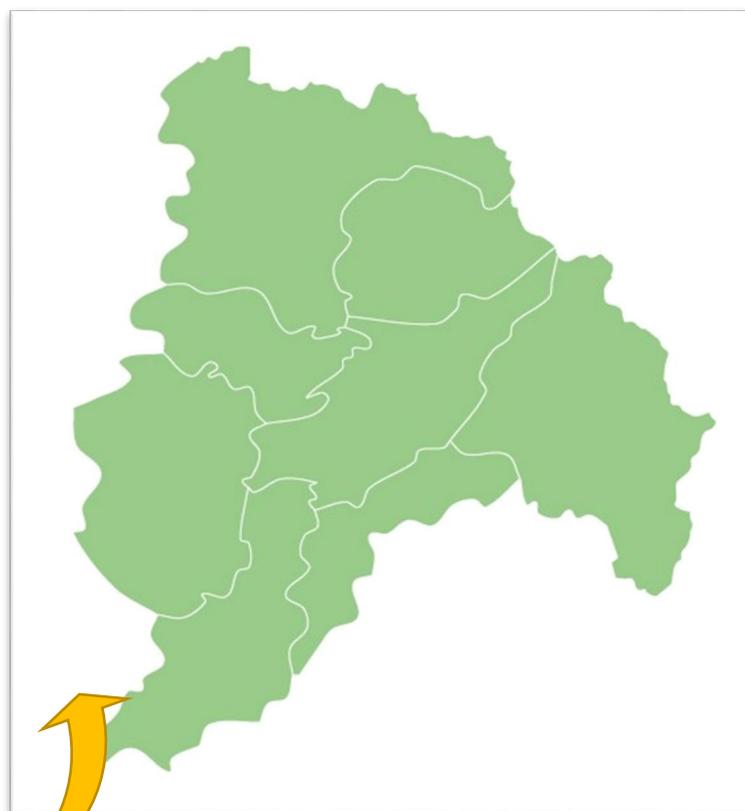


令和4年度
基盤共通教育集中講義

フィールドラーニング ー共生の森もがみ プログラム案内

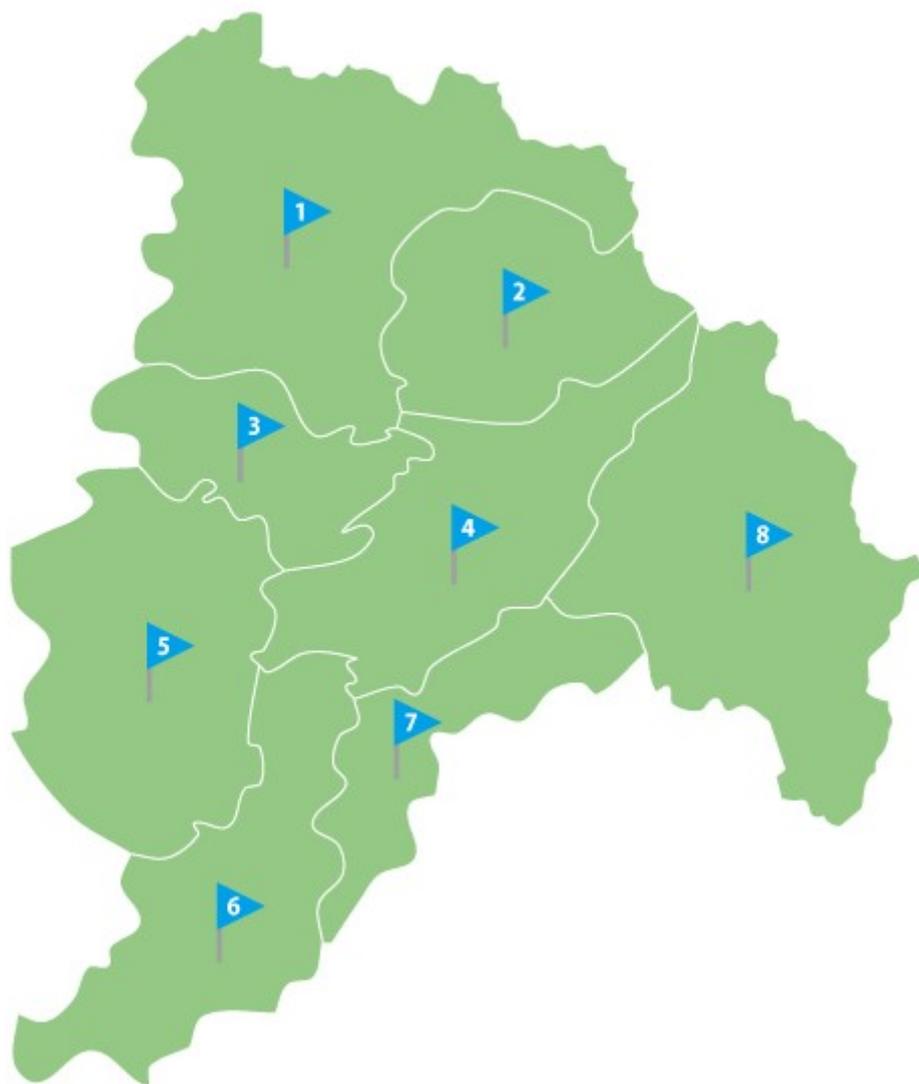


Q 最上広域圏8市町村の場所と名前を当ててみよう
→答えは表紙の裏へ！

エリアキャンパスもがみマスコット ヤム君



最上広域圏の場所と名前みんな覚えてね！！



1. 真室川町
2. 金山町
3. 鮭川村
4. 新庄市
5. 戸沢村
6. 大蔵村
7. 舟形町
8. 最上町

目 次

◇授業計画（シラバス）	2
①新庄市	4
②金山町	6
③最上町	8
④舟形町	10
⑤真室川町	12
⑥大蔵村	14
⑦鮭川村	16
⑧戸沢村	18

授 業 計 画 (シ ラ バ ス)

■授業科目名： 前期・・・フィールドラーニングー共生の森もがみ（山形から考える）
 ■担当教員：阿部宇洋、橋爪孝夫、菊田尚人 ■担当教員の所属：学士課程基盤共通教育機構、地域教育文化学部
 ■開講学年：1年、2年、3年、4年 ■開講時期：前期 ■単位数：2単位 ■開講形態：講義
 ～・・・授業概要～・・・

◎テーマ
 自然豊かな山形県最上地域でのフィールドラーニングを通して、地域の文化や歴史、自然、環境等だけでなく、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと共に学び、実践的な視点から知識を獲得し、山形から日本、世界及び過去から、現在、未来の空間及び時間軸で現象を把握する力を養う。

- ◎到達目標
 この講義を履修した学生は、
- 1) 地域から与えられた課題を発見できる。【知識・理解】
 - 2) 地域で発見した課題を探求することができる。【知識・理解】
 - 3) 課題を議論することで、コミュニケーションできる。【態度・習慣】
 - 4) プレゼンテーションを行うことができる。【技能】
 - 5) 行動力、社会性の基礎的な力を身につけることができる。【態度・習慣】

◎キーワード
 山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル、学生主体型授業
 ～・・・授業計画～・・・

◎授業の方法
 この授業は、各自が以下のプログラム（①～⑧）から1つを選択して受講する。受講の流れは以下のとおり。

- 1) オリエンテーション
- 2) 事前学習 (WebClass)
- 3) 【1泊2日フィールドラーニング (1回目)】
- 4) 中間学習 (WebClass)
- 5) 【1泊2日フィールドラーニング (2回目)】
- 6) 最終レポート (WebClass)
- 7) 活動報告会に向けた説明会・練習、活動報告ポスター作成
- 8) 活動報告会での発表

前期

	プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①	十日市復活 - 未来のウォークアブル街づくりについて考える -	新庄市	5月7・8日	5月14・15日
②	かねやま旅情	金山町	5月14・15日	6月4・5日
③	最上町から生まれた楽器を全世界に広めよう	最上町	5月28・29日	6月11・12日
④	里地里山の再生 I	舟形町	5月21・22日	5月28・29日
⑤	子どもの自然体験支援講座	真室川町	6月11・12日	7月2・3日
⑥	知られざる大蔵村の歴史と文化、郷土の食を求めて	大蔵村	5月28・29日	6月4・5日
⑦	人と自然と地域をつなぐ環境保全活動	鮭川村	5月7・8日	6月18・19日
⑧	里山保全と角川のパワースポット巡り	戸沢村	5月21・22日	6月11・12日

～・・・授業計画～・・・

①説明会（各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査）

4月5日（火）～4月12日（火）17:00 WebClassで実施します

※4月11日（月）16:00～ 211教室にて説明会を行います。興味のある方は参加してみてください。

②抽選

4月13日（水）12:00 掲示板・WebClassで発表します

③履修登録

4月11日（月）～4月14日（木）17:00 学務情報システムで各自履修登録

④オリエンテーション（班顔合わせ、役割決め、フィールドラーニングの心構えについて）

4月22日（金）16:30～18:00 基盤1号館 112教室

⑤各プログラム毎にフィールドラーニング

5月7日（土）～7月3日（日）

⑥活動報告会

7月22日（金）16:30～18:00

基盤1号館 112教室

学習の方法

◎受講のあり方

- 1) 安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。
 - 2) 専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドラーニング（あるく・みる・きく）で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。「現場で考える」「体で考える」（もちろん頭も使います）ことが合言葉！そして、自分の想像力を大事にしてください。
- ・学部の行事や、サークル活動（大会）と予定がバッティングしないように気をつけてください。必ず確認すること。
 - ・メールでのお知らせや掲示板での情報がありますので、必ず確認してください。

◎授業時間外学習へのアドバイス

- (1) オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。
- (2) オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習、②中間学習、③最終レポートに取り組んでください。
また、フィールドラーニング中はこまめに記録ノートを作成するよう努めてください。
- (3) フィールドラーニング終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。方法については説明会を開催し、発表指導を2回行います。

成績の評価

◎基準

- (1) 地域での活動により課題を発見し、探求により深め、活動報告会の発表により他者に伝える事ができたかどうかを評価の基準とします。
- (2) 一連のグループ学習の中でコミュニケーション能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とします。
- (3) 現地講師による活動評価、受講態度や、指示に対する達成度を数値化しそれを参考に教員が相対的に評価を実施します。

◎方法

前提として、現地活動にはすべて参加していること、また最終レポート提出が基本条件。

- フィールドラーニング活動への参加度40%
- 活動報告会での発表の完成度（ポスター含む）30%
- 現地講師による活動評価20%
- 受講生による相互評価10%

テキスト・参考書

参考書：オリエンテーションで配布する「しおり」を参照するほか、活動中に地域で配布される資料を活用してください。

その他

◎学生のみなさんへのメッセージ

フィールドラーニングとは、山形大学オリジナルの学術用語で、学部専門で学ぶであろう、フィールドワークの入門編として設計されました。フィールドワークでは全て、みずからの関心で調査する事に対して、フィールドラーニングとは、提示されたプログラムを通して、課題発見などを行なう教育プログラムになっています。

最上地域は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて（味わって）、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。

この講義をきっかけに、多くの学生が最上地域での課外活動に参加してきました。教員を目指す学生や、地域でのボランティア、地域活動を体験したい学生にはお勧めです。

本授業は宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。（詳細は、プログラム説明会の際に説明します。）

◎オフィス・アワー

原則としてWebclassのメッセージで質問を受け付けますが、オフィスアワーとして「阿部研究室」（基盤教育1号館2階東側）において、予約制で受け付けます。会議や出張等で不在にすることもあるため、確実に面談したい場合は事前にWebclassのメッセージで予約をお願いします。3人の教員が担当していますが、基本的には阿部へ連絡をください。

●目的・概要

新庄市の都市経営課題でもある「車中心の都市政策」現代は少しの距離でも車を使う。特に冬は除雪は行いが出歩く人は少ない。お店から近い距離に駐車したいという人々の意向もあり、商店街に人が集まることはなくなってきています。

そんな中でも新庄市内で比較的商店が集まっているエリアである万場町。そこではかつて「十日市」が開かれていました。その十日市を現代版にアレンジして開催しようとする万場町の様々な人達が動いています。

万場町の人達が関わっている十日市復活プロジェクトに参加することを通して、未来の商店街のあり方や魅力について考えるプログラムを開催します。

<訪問1回目 令和4年5月7日・8日>

◎活動内容

7日（土）

【午前】

- (1) オリエンテーション
- (2) 地域の歴史について学習

～昼休憩～

【午後】

- (3) 町歩きで万場町の人と交流
- (4) 十日市を行う場所について確認。

8日（日）

【午前】

- (1) 万場町ホコテン企画チームから学生にプロジェクトの趣旨について説明。
- (2) 学生に企画チームからの説明をふまえて何をしたいか考えてもらう（運営として参加するのか、どのお店の手伝いに入るかなど）。

～昼休憩～

【午後】

- (3) 午前中に考えた役割を遂行するにあたり何が必要なのか考えてもらう。
- （準備・計画・予算立て・物品の用意など）

<訪問2回目 令和4年5月14日・15日>

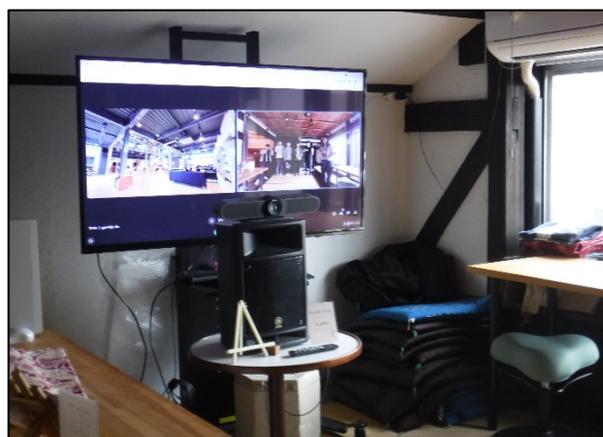
◎活動内容

14日（土）

1回目の訪問で固めた内容をもとに実際に十日市に参加する。

15日（日）

前日の活動内容の振り返り。



●講師

- ・(一社) 最上のくらし舎 吉野 優美 氏
- ・本澤 充夫 氏…5月7日午前で万場町の歴史について説明を行う
- ・万場町歩行者天国企画チームの皆様
…人数は未定。5月8日午前に学生にプロジェクトについて説明を行う

●受講定員(最小開講人数)

8人(2人)

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

- 訪問1回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円+ α
(食事代)
- 訪問2回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円+ α
(食事代)

合計 2,500円+ α

昨年度新庄市プログラム受講生の感想

・私は今回フィールドラーニングに参加し、新たな発見があった。1つは、万場町の人々の暖かさである。ゆうみ氏が住民の方に紹介をしてくださったからという面も大きいと思うが、色んな人が歓迎の意を示してくれた。そして、万場町の住民の方々は互いに助け合う意識が強く、なにか困った時があったときはすぐ手を差し伸べるようなローカルの良さを感じた。「のくらし」に飾ってある花や、七夕祭りのときの材料となる紙などを提供しあうようなところからもそのようなことを感じた。(Hさん)



・今回のフィールドラーニングでは、のくらしについて、IWAについて、万場町について多くのことを学んできた。それらに共通する観点がある。「つながり」をどう作っていくかということだ。1日目の活動の中で、のくらしは地域に根差した喫茶店・間貸しとしての在り方を保ちながらも、いろいろな目的を持った人々が集う活動拠点としての場所であるとわかった。その二つの形態は、一見すると客層がかぶっておらずバラバラなものに見える。しかし、地元の人とモグラが偶然に話すこともあるだろうし、そこで新たな活動のきっかけが生まれるかもしれない。のくらしでしか生まれることのない新たなつながりが生まれるのだということを知った。これはのくらしの核をなすコンセプトとなっている。(Tさん)



十日市(マルシェ)への参加を通して街づくりや商店街に残っている課題やインターネットなどでは情報を得にくい商店などについて考えるきっかけにしてもらえればと考えています。特にイベントの企画・運営やまちづくり、地域歴史などについて興味のある方は是非参加してみてください。

●目的・概要

○今回の金山旅の魅力を SNS で拡散してもらうこと。

○新たな町旅の提案してもらうこと。

～泊まる・食べる・体験する・買う～

(金山町の観光資源の PR と観光人口の増加につなげる役割を担ってもらう。)



<訪問1回目 令和4年5月14日・15日>

◎活動内容

1日目

09:45 新庄駅集合(町バス移動)

10:40 遊学の森着

11:00 オリエンテーリング・そば打ち

12:00 昼食

13:00 水辺の観察会

15:30 振り返り

16:00 ホテルへ移動(町バス移動)

※16:00からは、旅の提案に必要なプレゼンのための自主活動の場とする。町旅の提案するにあたりキーマンになりそうな団体や個人を調査し、タイムスケジュールやテーマなど事前にお知らせいただければ交流及び研修の場を提供します。

2日目

08:40 ホテル出発

09:00 谷口地区公民館着

谷口歴史講座

12:00 昼食(町内飲食店)

13:00 谷口銀山見学とボランティア清掃

14:30 遊学の森へ移動

15:00 振り返り(町バス移動)

16:00 新庄駅解散

<訪問2回目 令和4年6月4日・5日>

◎活動内容

1日目

09:45 新庄駅集合(町バス移動)

10:40 遊学の森着

10:50 森の感謝祭 2022

①木エクラフト②ネイチャーゲーム

③観察会④そば打ち

15:00 終了、振り返り

15:30 ホテルへ移動(町バス移動)

※16:00からは、旅の提案に必要なプレゼンのための自主活動の場とする。町旅の提案するにあたりキーマンになりそうな団体や個人を調査し、タイムスケジュールやテーマなど事前にお知らせいただければ交流及び研修の場を提供します。

2日目

08:45 ホテルパル集合

09:00 木育×食育フェス「ブナの新緑フェスト」
ブナの新緑案内やマイ箸づくりなど

13:00 スポーツ GOMI 拾い

15:00 振り返り(グリーンバレー神室管理棟)

15:20 グリーンバレー神室出発(町バス移動)

※このタイミングで旅の提案を発表してもらいます。

未完了の場合は持ち帰り、後日に発表してもらいます。

16:00 新庄駅解散

●講師

遊学の森 三上重幸氏
谷口銀山保存会 井上敬助氏

●受講定員（最小開講人数）

8人（5人）

●費用の目安

※変更がある可能性があります。

訪問1回目 昼食代 1,000円 + 宿泊料 4,500円 + α （朝食代、夕食代など）

訪問2回目 昼食代 1,000円 + 宿泊料 4,500円 + α （朝食代、夕食代など）

合計 11,000円 + α

昨年度金山町プログラム受講生の感想

・私がこのフィールドラーニングに参加しようと思った理由は、山形県のことについてより詳しく知りたいと思ったからです。また、郷土料理等も詳しくないので、金山町でいろんなことを学びたいと思って参加しました。また、山菜採りをしたことがなくあまり食べたこともなかったので、自分の手で採り味わって見たいと思い参加しました。これらの活動を通して、事前の下調べを行う重要性や、沢山の人とコミュニケーションをとることの大切さを学びました。コロナで人と関わる機会が減っていますが、人と話すことで多様な考え方があったり、新たな知識を得ることができたりと沢山の利点があることに気づきました。（Mさん）



・私が金山町を選んだ理由の一つはそば打ち体験やピザづくりの活動、普段食べることのない山菜を食べることができるということでした。しかし、事前学習をしていくうちに、金山には独自の景観・景観を保護する政策があり、金山住宅や白壁・蔵など街並みを大切にしている町だということや、市街地から離れたところには豊かな自然がありキャンプを楽しむこともできると分かりました。（Kさん）



・さまざまな活動を通して、金山町には建築材料として優れている金山杉や多様な植物、プラネタリウムのような星空など豊かな自然という大きな強みがあることが分かりました。これらを、グランピングという形で利用することで若者を取り込み、金山町の要望に応えられるよう、費用面などを綿密に計上することでより現実的で具体的な案を金山町に提案することで、金山町の活性化に寄与したいと考えた。また、町おこしの発案の難しさを学ぶことができた良い機会であったと感じた。（Kさん）

金山町ならではの体験活動や銀山跡の見学などを行います！
夜は温泉に入ってホテルに宿泊です！
観光気分を味わいながら旅の提案を考えていただくコースです！



●目的・概要

○最上町で活動する団体「ベルフォレ」は、最上町の木材を活用した楽器を制作し、演奏活動を行う団体です。毎年、木と音の会代表泉谷氏を講師に迎え、町内のイベントなどで共に行っています。今後の活動テーマとしては、①「森から生まれた楽器」を町の子供と大人が楽しむ場所をつくる。②その楽しみ方を発信して、町外、国外で同じように楽しむ人を増やす。③最上町を拠点として、町外、国外との交流を促進する。この3つを軸に進めていきたいと考えています。そこで学生には、実際に楽器に触れ、演奏を楽しんでいただきながら、それぞれが感じたことや、本活動の新たな可能性、改良した方がいい点などを最上町に提案して頂きたいと考えています。



<訪問1回目 令和4年5月28日・29日>

◎活動内容

- プログラム説明（担当者、講師から）
- 楽器演奏

<訪問1回目 令和4年6月11日・12日>

◎活動内容

- 楽器練習（可能ならば子どもと）
- 発表準備、発表

●講師

木と音の会 代表 泉谷 貴彦 氏

●受講定員（最小開講人数）

8人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 6,350円 + 実習経費 2,000円

訪問2回目 宿泊料 6,350円 + 実習経費 2,000円

合計 16,700円



昨年度最上町プログラム受講生の感想

・2回のフィールドラーニングでは主に、農業体験と小学生の自然体験教室（ワイルドアドベンチャースクール）の支援という2つの経験をしました。農業体験では、もがみ産のアスパラガスの魅力を学び、また東北一の生産量を誇るきのこ生産工場を訪問してきのこの人工栽培の方法を教わりました。小学生の自然教室支援は、第1回は田植え体験、第2回は高原トレッキングに同行しました。1回目は子どもとの接し方に戸惑いを感じたり、何をどう話せば良いかわからず心残りな点がありました。しかし、中間学習で子どもとの接し方について調べて臨んだ2回目では、子どもたちにとっても2回目で大学生に慣れたということもあって、1日中会話を楽しむことができました。2回目の最後に、一緒にいた子どもから「毎回大学生がいてくれたら毎回自然教室に参加するのに」と言われ、とても嬉しかったです。（Oさん）

・この活動で感じたのは最上町はただ自然があるだけでなく自慢できるアピールポイントが山ほどあることです。しかし課題はそれが地元でしか知られていず、世間的にはあまり知られていないという所です。それを改善するため最上町のアスパラガスを用いて町おこしを行うことを提案したいです。まず多くの人にアスパラガスについて知ってもらうためブランド化を目指したいと思います。それだけでなく、ブランド名などを実際に応募してより関心を持ってもらえるようにしたいです。そうすることでひとりでもアスパラガスの魅力に気付いて好きになってもらえたらうれしいと感じます。実際に最上を訪れたことで今まで見えてこなかった魅力や課題を発見することが出来ました。また、最上町の方が地元を素敵なものにしていこうと全員で活動している点も最上町の魅力だと感じました。このフィールドワークは自分の世界を広めてくれた活動となりました。

（Kさん）



木で作った楽器を弾く体験はあまりできないことなのでぜひ体験していただきたいです。

※このプログラムは今年度から初めて実施されるプログラムです。昨年度と内容が異なりますのでご注意ください。

●目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

○地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）

○食と農の体験活動



<訪問1回目 令和4年5月21日・22日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

<訪問2回目 令和4年5月28日・29日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

●講師

堀内ファーム 大山 邦博

●受講定員（最小開講人数）

10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代 6,000円程度

訪問2回目 宿泊料・食事代 6,000円程度

合計 12,000円



昨年度舟形町プログラム受講生の感想

・雪室貯蔵庫は比較的少ない投資で野菜やコメにさらなる価値を付加することができたが、本格的に販売するには大規模な設備が必要なので、多額のコストがかかるようだ。農作業ではハウスでのきゅうりの誘引作業の手伝いと液肥をきゅうりに与えるためのパイプの配管作業を行った。キュウリの誘引作業は単純な動作を繰り返す作業だったが、慣れてくると気が緩んできゅうりを傷つけてしまいそうになることがあった。キュウリの誘引作業は収穫量を多くするための工夫で、使用するテープは光分解性のものになっているなど、環境にも配慮されていた。また、講師の人はハウスの気温管理などの作業を機械化できる人がいればな一言っていた。(Iさん)



・このような経験から私は改めて実体験や現地を実際に見に行き現地に住む人の話を聞くことの大切さがわかった。自分は将来研究者の道に進みたいと考えているため、キャリアデザインのための示唆を多く得ることができた。今後実際に自分の取る行動としてはまず舟形町に直接関係することとして舟形町の野菜やそばを学生食堂で提供してもらうよう提案すること、自分自身のためにはまず現地・現場を意識して何かを提案するときや分析するときは机上の空論にならないよう意識することだ。フィールドラニングを通じて農業についての具体的な知識を得ることができたが、キャリア形成にも役立つような普遍的なことを学ぶことができてよかったと感じている。(Uさん)



・私が特に苦勞した作業がきゅうりの苗の運搬である。ただ苗を運搬するだけならそこまで苦勞しないが一度苗を液肥に漬けてから運搬する必要があった。土壌もぬかるみ足を取られないように気を付けながら苗を持って行っては置いて新たな苗をもらいにいくことの繰り返しはかなりの重労働であり汗をかくものであった。しかし作業を終えた後の達成感や農業を実際にやってみないと味わえないものだと思えた。是非ともこの農業体験を舟形にきて多くの人に体験してほしいと思った。(Kさん)



農業体験を通して、将来、社会で役立つスキルを身に付けることができます。
参加者には、団体が生産したお米(はえぬき)をプレゼントします。

子どもの自然体験支援講座

●目的

子どもの自然体験活動の支援に携わり、体験活動を通じた子どもの変容に気付くことで、自然体験活動の意義を感じたり、よりよい支援のあり方を考えたりする。

●概要

<1回目>

1日目：①FLによる「めんごキャンプ」プログラム体験と、支援のあり方のシミュレーション

②現代の子どもの課題と、自然体験活動の意義を学ぶ研修

2日目：幼児・低学年対象「めんごキャンプ」のスタッフとして子どもの体験活動の支援を行い、ふり返り、よりよい支援のあり方を考える。

<2回目>

1回目の経験をもとに、小3・4年対象「わんぱく探検隊」のスタッフとして、子どもの体験活動の支援を行う。

講座全体を通して、子どもへの支援を通して得た気付きをもとに、自然体験活動の意義やよりよい支援のあり方についての考えをまとめる。

<訪問1回目 令和4年6月11日・12日>

◎活動内容

1日目

・オリエンテーション、ワークショップ

①真室川町の紹介

②ワークショップ

「自然体験・学び・支援」

③自然体験実習

2日目

企画事業「めんごキャンプ」活動支援

・幼児～小学2年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

・野遊び

・トレッキング など

<訪問2回目 令和4年7月2日・3日>

◎活動内容

企画事業「わんぱく探検隊」活動支援

・小学3・4年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

・野遊び

・野外ビバーク泊

・トレッキング など

・フィールドラーニングのふりかえりと共有

●講師

山形県神室少年自然の家職員

●受講定員（最小開講人数） 15人（10人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 3,500円（飲食料費・保険代・活動費・宿泊費等）

訪問2回目 3,500円（飲食料費・保険代・活動費・宿泊費等）

合計 7,000円



昨年度真室川町プログラム受講生の感想-----

・子どもたちと触れ合うことの楽しさを味わった一方で、その難しさも肌を通して実感できました。このもがみて学んだことをこの授業で終わらせてしまうのではなく、次に生かせるように、それは自然体験の知識だったり、子ども達とのふれあいなど様々あると思います。また、真室川を発展させようと試みた今回の取り組みは今後も役に立つと思います。この経験を忘れないようにしつつ、日頃の授業や活動につなげたいです。(Kさん)



・一泊二日、計4日間子どもたちの支援を行った。自然豊かな真室川町の神室少年自然の家で、トレッキング、生き物探し、川遊び、ビバーク泊など、日常生活ではなかなかできない体験をすることができた。また、班員や子供たちと過ごす中で、たくさんの学びを得ることができた。(Sさん)



・山登りでの出来事だが、頂上付近まで登ってきたあたりで立ち止まり周りの音を聞いてみようという時間があった。子供達が最初は何も聞こえないと言っていたが、静かにして少したつと複数の種類の鳥の鳴き声や、木の葉のそよぐ音が聞こえてきた。それが分かるとうれしそうに聞いていた。また途中で木漏れ日が差し込むあたりで山の中の色がきれいだという感想があった。(Oさん)



・私は今回真室川町で行われた子どもの自然体験に参加して、子どもたちの年齢に合わせて接し方を変える必要があることを学んだ。年齢によって自然体験を通した子どもたちの成長の仕方には違いがあることに気がつき、子どもたちに合わせた適切なサポートとは何なのか考えるきっかけになった。(Sさん)



真室川町の講座は、真室川町教育委員会と山形県神室少年自然の家が連携して行います。自然の家が主体となって運営し、真室川町教育委員会はバスでの送迎などのサポートを行います。講座の内容は、子どもの自然体験活動支援について考えるというものです。学生の皆さんには、子どもたちが自然の中で体験活動を行う様子を見守ったり、子どもたちの体験活動を支援したりしていただきます。そのことを通して、現代の子どもを取り巻く課題や、子どもが自然体験活動を行う意義、よりよい支援の仕方等について考えるきっかけになることを目指しています。自然体験活動をするための環境が整った真室川町、そこにある神室少年自然の家でいきいきと学ぶ子どもの姿や、自然体験活動を通して変容していく子どもの姿を実際に目の前で見て、感じていただけたらうれしく思います。

●目的・概要

大蔵村の人々は、歴史・文化・産業といった地域の伝統を共有することによって、共同体としての意識・誇りをもって暮らしてきた。近年、少子高齢化とともに世の中の多様化の波が大蔵村にも押し寄せている。働き方・生活様式・人との関わり方などが変化し、伝統を受け継ぎ共同体を維持していくため、地域の人々は様々な取り組みを行っている。村の取り組みの工夫と苦悩、課題について、体験を通して学び考えることがこのプログラムの目的である。

具体的には、以下の取り組みを中心に学び考える。

- 四ヶ村の棚田・食文化の保存活動
- 若者グループの産業・地域活性化活動
- 合海田植え踊り保存活動
- 村の歴史と伝統文化の継承
- 肘折温泉の湯治スタイル



<訪問1回目 令和4年5月28日・29日>

◎活動内容

- ◎大蔵村の伝統と歴史を学ぶ
 - ・講義：大蔵村肘折の歴史
 - ・見学：「肘折のこけし」
 - ・体験：こけしの絵付け体験
- ◎肘折温泉の湯治を体験
 - ・体験：肘折湯治スタイル
- ◎四ヶ村の棚田保存活動
 - ・講義：四ヶ村棚田保存活動について
 - ・実習：四ヶ村の棚田田植え体験
- ◎合海田植え踊りの保存活動
 - ・体験：伝統芸能「合海田植え踊り」

<訪問2回目 令和4年6月4日・5日>

◎活動内容

- ◎若者グループの産業・地域活性化
 - ・対談：大蔵村若者グループ「メンズ農業」
 - ・見学：大蔵トマト栽培
 - ・講義：大蔵わさびについて
 - ・実習：大蔵わさび収穫・加工体験
- ◎食文化の保存活動
 - ・実習：笹巻作り
- ◎合海田植え踊りの保存活動
 - ・見学：伝統芸能「合海田植え踊り」

●講師 地域住民の方々

●受講定員（最小開講人数） 10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 9,000円

訪問2回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 6,000円

合計 15,000円



昨年度大蔵村プログラム受講生の感想

・トマト栽培の後継者を増やすための方法を模索した。その結果、大学と大蔵村がより深い連携を図るのが最適ではないかと考えた。私個人の見解として、フィールドラーニングに行くまでは将来の進路として会社員や公務員になることしか選択肢になかった。以前から自然や農業に興味はあったが、実際に自分が大学卒業後に農業に従事するという考えは全くなかった。しかし、ZOOMで「メンズ農業」の話聞き、自治体からの金銭的補助の存在や、就農1年目からも安定した収入を得られることを知ってから、就農に興味湧き、将来の職業選択の幅が広がった。(Sさん)



・「自分の地元と似ている点が多い」というのが、私が大蔵村のフィールドワークを選んだ理由だ。特に歴史的な観光地が多くあること、充実した特産品、田植え踊りといった伝統芸能を継承していることなどだ。しかし地元の現状はよいとは言い難い。2回のフィールドワークを通して私が大蔵村と地元が一番の違いとして感じたことは、村民が自分の村の魅力だけでなく課題点も理解し、解決に努めているということだ。私の地元では町づくりは行政がするものと捉え、自分の町について知っているようで実は全く知らず、課題意識がないことが大蔵村との決定的な違いだと考えた。特に肘折温泉は県内有数の温泉地であるが、観光客の減少や歴史資源への無関心といった課題に目を向けている。その結果、若者をターゲットとしたコワーキングスペースを設置するなど、歴史や伝統を残しつつも新たな変化を続けている。これは村民が誇りを持ち、歴史や文化を愛しているからこそできる、大蔵村ならではの魅力だと感じる。(Sさん)



・今回のフィールドラーニングに参加したことで、大蔵村の温泉や歴史、食べ物、景観など多岐にわたる魅力を発見することができた。それ以前までは肘折地区が豪雪地帯である、といった程度の知識しか無かったものが実際に現地へ赴くことで様々なことを学ぶことができた。(Yさん)



大蔵村は全国屈指の豪雪地帯、かつ県内で最も人口が少ない村でありながら、村民の皆さんの元気・笑顔は県内随一です。是非、元気と伝統文化、数々の特産品を育てている大蔵村の空気と自然、人の暖かさに実際に触れて下さい。



●目的・概要

『地域の自然は地域で守る』をスローガンにしている『鮭川村自然保護委員会』の方々から、環境保護活動について教えてもらいます。絶滅危惧種などの希少な動植物が自生する里山で、保全活動を体験することにより、生物多様性と地域の関わりを学びます。



<訪問1回目 令和4年5月7日・8日>

◎活動内容

1日目

鮭川村の自然と保護活動の説明 等

2日目

自然環境調査（希少動植物） 等

※荒天等により、内容が変更になることがあります。

<訪問2回目 令和4年6月18日・19日>

◎活動内容

1日目

自然環境保全活動、自然環境調査（希少動植物） 等

2日目

自然環境保全活動 等

※荒天等により、内容が変更になることがあります。

●講師

鮭川村自然保護委員会 会長 高橋 満 氏
 ネイチャーアカデミーもがみ 代表理事 矢口 末吉 氏

●受講定員（最小開講人数）

5人（3人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 7,000円+昼食代 1,200円（2日分）

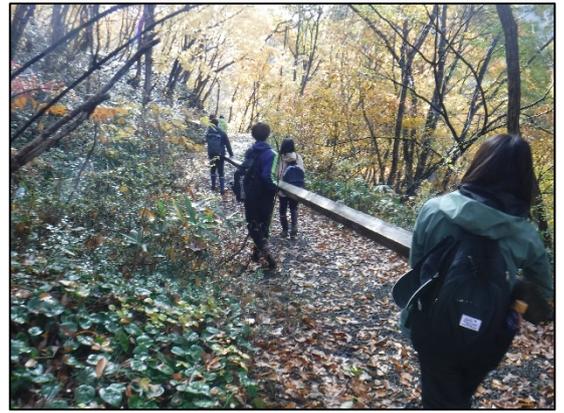
訪問2回目 宿泊料 7,000円+昼食代 1,200円（2日分）

合計 16,400円



昨年度鮭川村プログラム受講生の感想-----

・このフィールドラーニングを終えての自分の課題は、環境保全の取り組みをもっと知り、自分にできることを実践することです。そのために、これからは意識的に環境保全の情報をニュースなどで得ようと思いました。加えて、自然が残っている湿原や里山などに積極的に足を運び、今回学んだことの理解を深めたいと感じました。また、直接鮭川村の環境とは関係ありませんが保全活動を通して、環境に優しい製品を選択しようと思いました。地域への提案としては、大学生で環境保全に興味を持っている人は多いと思うので、今回のようなプログラムをこれからも続けていただきたいと感じました。そうすることで、環境保全の大切さや大変さを感じ、多くのことを学び、保全活動を通して役にたてるのではないかと考えました。(Tさん)



・水生生物の調査では水田の横の水路で簡単にイモリやヤゴ、さらには希少な生物であるホトケドジョウやモリアオガエルなどを採集することができた。これらの種はいずれも水田に散布される農薬や水路のコンクリート化などにより生息数を減らしている種であり地元の方々の環境保全への理解と協力によって生息地が守られていることを感じた。湿原の整備では希少な植物がその湿原で増えることができるように周りにある葎などを刈る活動をした。湿原はぬかるみ、作業は鎌を使って手作業で行い、希少な植物を間違っ刈り取らないように集中して行うため大変な重労働になった。しかし、説明や案内をいただいた地元の方は毎日見回りと作業を行っているそうで、環境保全活動の大変さを改めて感じた。(Yさん)



鮭川村の自然や保全活動を体験して、米地区いきもの図鑑（マップでもOK）を作ってもらいます。

生物多様性や環境保全に興味がある人、鮭川に来てみませんか？

●目的・概要

戸沢村角川地区は四方を山々に囲まれた「山村地域」です。山々は杉の人工林やナラ・ブナなど広葉樹に覆われています。この里山にある様々な資源を活用することが求められています。しかし、高齢化や若者の転出によって地域の過疎化が進んでいます。こうした状況を打開するために、「地域にある資源は全て宝物」であるとの目で、地域を外部から見て頂きたい。この地区でこれまで行われてきたことをプログラムに取り入れて実施する。

<訪問1回目 令和4年5月21日・22日>

◎活動内容

○第1日目の午前はオリエンテーション及び座学を行う。午後は山菜採りを行う。

○第2日目の午前は、前日に採った山菜を主に「山菜料理づくり」を行う。午後はキノコの菌植えを行う。

<訪問2回目 令和4年6月11日・12日>

◎活動内容

○第1日目の午前は木エクラフト（フクロウづくり）を行う。午後は杉林の除伐・間伐を行う。

○第2日目は、角川のパワースポット「浄の滝」へのトレッキングを行う。

●講師

田舎体験塾つのかわの里の事務事務局及び地元のインストラクター

●受講定員（最小開講人数）

14人（10人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 5,000円+諸経費（昼食代等）4,000円

訪問2回目 宿泊料 5,000円+諸経費（昼食代等）4,000円

合計 18,000円



昨年度戸沢村プログラム受講生の感想

・「蕎麦打ち体験、山菜採り、山菜料理、キノコの菌植え」を体験しました。どれも初めての経験で、大変面白かったです。特に、山菜採りと山菜料理が印象に残っています。初めて山菜を自分の手でとって、それを自分で食べる経験ができました。始めは山菜を見分けるのに苦労しました。また、宿泊先での料理も山菜が中心で、地元の方々の食文化を教えてくださいました。それを自分の手で体験できてよかったです。(Nさん)



・杉の間伐、木エクラフト、トレッキングを体験しました。地元の方から杉の間伐が衰退していると聞き、実際体験したところとても力のいる作業で、高齢化が進んでいる戸沢村では今後衰退していく可能性が高く、若者を林業に就かせる仕組みや機械化を図るなどの対策が重要だと思いました。トレッキングでは頂上の滝を目指し片道2時間ほど歩きました。山の入口のほうはしっかりと整備してあり安全でしたが、奥になるにつれて足場が悪くなり危ないところも少々あったので山奥の開拓も課題の一つだと感じました。(Sさん)



・間伐体験と木エクラフト、浄の滝トレッキングを行った。間伐体験では、切り倒された木をノコギリで切るだけだったが、間伐の現状や間伐の意義など普段生活しては聞けないような貴重なお話をいただいた。木エクラフトでは、そもそも工作をするのが小学生以来の体験であり懐かしさを感じた。また、間伐材を利用したクラフトだったので、他に間伐材の有効活用方法は何かないだろうかと考えた。浄の滝トレッキングでは、途中まで整備された道を進み、そこからは急な崖がすぐ隣にあるような道や川の中を進んで浄の滝にたどり着いた。目の前で浄の滝を見て、迫力のある滝の流れと、2つの山のが織りなす荘厳さを実感した。また番外的ではあるが、第1回、2回の時に泊めてくださった方に、幻想の森や白糸の滝に連れて行っていただいたがその景色も素晴らしいものだった。(Sさん)



特に角川のパワースポットになっている「浄の滝」の景観は、正に荘厳です。滝の両側には高さ200m 近くの岸壁が聳え、その間から水が勢い良く、しぶきをあげながら80m程の落差の岩肌を滑りおちる。